

番組審議会議事録（第6回、平成27年7月13日開催）

1 開催年月日：平成27年7月13日（月）

2 開催場所：私学会館 アルカディア市ヶ谷（7F 白根）

3 委員出席

委員総数 9名

出席委員数 6名

出席委員の氏名：岡田裕介（東映株式会社 代表取締役グループ会長）、

足立盛二郎（前公益財団法人 日本棋院理事、

元ゆうちょ銀行取締役兼代表執行役会長・日本郵政取締役）、

音 好宏（上智大学 文学部 新聞学科 教授）、

中村幸雄（オフィス・サンライズ 代表、

元株式会社損害保険ジャパン 代表取締役専務・監査役）、

金子光男（公益社団法人日本将棋連盟 学校教育アドバイザー 大学担当

明治大学付属明治高等学校・中学校 前校長）、

小川誠子（囲碁棋士／公益財団法人日本棋院 理事）、

放送事業者側出席者名：岡本光正代表取締役社長、勝股信昭取締役、

驛田雅文業務部部长、遠藤 健業務部課長、高田智子、張 慧娟

4 議題

- ・生放送・特集・入門番組について
- ・今後放送予定の番組について
- ・放送番組編集基準、今後の活動などについて

5 議事の概要

(1) 生放送（囲碁「2014年棋戦優勝者選手権戦 決勝戦」、将棋「将棋界の一番長い日」）、

囲碁スペシャル「囲碁ドラフト戦2015」、

将棋スペシャル「プロ編入記念対局 ～今泉健司新四段 vs 瀬川晶司五段～」、

幽玄の間 presents 囲碁講座「マイケル&パッケンの”Let's enjoy 碁学留学”」、

「～島ぜんぶでおーきな祭～初心者向き！ オリエンタルラジオのおもしろ囲碁教室」

最近放送した番組の中から、生放送、スペシャル番組、入門講座を紹介。

(2) 今後放送予定の番組について

囲碁「林 海峰名誉天元 vs 大竹英雄名誉碁聖 記念対局」、

将棋「羽生善治名人 vs 渡辺 明銀河 記念対局」。

開局25周年特別番組の紹介。

(3) 放送番組編集基準、今後の番組や活動などについて

番組編集基準へ新規文言の追加について諮問、会員制度など今後の予定を紹介。

6 審議内容

(1) 生放送・特集・入門番組について

生放送は出来るだけ増やしたい。(放送事業者)

○今年の「将棋界の一番長い日」の視聴率はどうでしたか？(金子委員)

→「将棋界の一番長い日」は朝9時10時から夜中の2時過ぎまで放送した。今年
は出だしの視聴率がそれほど高くなかったが、夜になるに従って徐々に高くなり、
夜中にピークとなった。(放送事業者)

○視聴率が高くなった要因は何だと思うか？(金子委員)

→残留、挑戦が決まる対局などの注目されている部分がやはり高くなっていると思
われる。(放送事業者)

○今後も視聴者が見たいと思うものを、制作されることを望む。(金子委員)

○囲碁スペシャル「囲碁ドラフト戦2015」は新しい碁の楽しみ方。新しい試みは良い
のではないか。あの手この手で若手にも参加してもらい遊び方を考えて、普及につ
なげていくのは大事。(足立委員)

○「幽玄の間 presents 囲碁講座～マイケル&パックスの”Let's enjoy 碁学留学”」で英
語の囲碁用語が出てきたが、今、画面に出てきた「ゲタ」→「Net」のように、殆ど
の囲碁用語は英語に対応しているのか？(音委員)

→殆どの囲碁用語が英語に対応しており、現状では特に支障はない。また、現在は
例えば「シチョウ」は「シチョウ」のままでも通じることが多い。(小川委員)

○「プロ編入記念対局 ～今泉健司新四段 vs 瀬川晶司五段～」は視聴者からの反応を
見ても分かるように報道の番組。こういうのが出てくると良いので、力を入れて欲
しい。(足立委員)

(2) 今後放送予定の番組について

○先日、将棋のプロアマ対局(朝日オープン)があり、10局行われた対局の内、アマ
チュアが4局くらい勝っていたが(※編集注：7月4日対局の一次予選)、放送する
予定は？プロがアマチュアに負けた対局は興味深いので見てみたい。(金子委員)

○25周年特別番組の内容が、囲碁と将棋で統一されていない。(岡田委員長)

→囲碁が目的の視聴者と将棋が目的の視聴者は別々なので、同じでなくても良いと考
えている。(放送事業者)

(3-1) 放送番組編集の基準について

※「放送番組編集の基準」に、光点滅に関する以下の内容を追記

「細かく点滅する映像や急激に変化する映像手法については、視聴者の身体への影響に十分配慮し、別途定める基準に従い、編集を行う」(下線部はリンク)(リンク文は省略。後日ホームページ上にて発表)

→ 諮問の結果、特に問題なし。

(3-2) 今後の番組や活動などについて

※ 会員制度を設け、配信していくことを検討している。(放送事業者)

○ 配信とは何か？(岡田委員長)

→ 主に棋戦の配信をする予定。棋戦の配信は生放送でないと意味がない。

(放送事業者)

(4) その他

○ 大学で囲碁の講義を始めるようになってから現在までに 21 の大学で行っている。

→ どういうことをやっているのか、を取り上げたら面白いのでは。(足立委員)

○ 遊んでいるわけではなく、授業として囲碁をやっていることをアピールした方が良い。囲碁の単位を取った学生は良いところに就職できる等メリットがあると良い。

(小川委員)

○ 「中国竜星戦」を観ていると字幕を追うのが大変。字幕を追っている間に画面は次に行ってしまう。(足立委員)

→ 翻訳をしにくい表現も含まれるため、現地の言葉を尊重している。(放送事業者)

○ 日中韓の厳しい情勢の中で、何か明るい話題になるものはないか？(足立委員)

○ 海外からのアクセスはあるか？海外在住の日本人は見ているのか？(金子委員)

→ ホームページに関しては、1%あるかないか。しかし、日本人かどうかは不明。

(放送事業者)

○ プロになったばかりの棋士、あるいは無名同士の対局は見ても面白さが伝わらないのではないかと。素人が観て面白い番組を考えて作って欲しい。昔の NHK 杯を観ていると、「羽生先生は昔から強かったんだな」、「この時の解説は大山先生だったな」とある種のノスタルジーに浸ることができる。(岡田委員長)

→ 大山先生の最後の対局は弊社の銀河戦だった。いつか大山先生の特集番組を作る際にその映像を使いたい。(放送事業者)

○ 日本将棋連盟や日本棋院が提案するものとは別の対局を企画して欲しい。例えば「女流棋士 vs 男性棋士」、しかも 1 回ではなく連続で、等。(岡田委員長)

- 先日カロリーナ・ステチェンスカさんが女流棋士 3 級の資格を得た。これは外国人で初めてのことであり、日本将棋連盟史上初のことだが、取材などはしているか？
(中村委員)
 - 来日当初は追いかけていたので、当時の映像はある。(放送事業者)
- レーティング (視聴率) はどうやって出しているのか？ (岡田委員長)
 - J:COM などから購入し、利用している。(放送事業者)

以上